

峯のみねのたより

私たちのお寺、長泉寺の会報誌。

— 宗立専門僧堂特集号 —

新装刊 010号
2013年12月21日発行

〒981-1505
宮城県角田市角田字長泉寺69番地
電話 0224 (62) 1004
FAX 0224 (63) 0063
<http://www1.odn.ne.jp/chosenji/>

曹洞宗六国峯 長泉寺

国際環境規格ISO-14001認証取得のお寺



国際的禅研修道場「第7回 曹洞宗 宗立専門僧堂」閉單

外国人僧侶が長泉寺に結集し、
3カ月間の安吾・研修を修了

長泉寺で8月26日から閉單されていた宗立専門僧堂は、去る11月18日にめでたく閉單を迎えることができました。期間中、檀信徒および有縁の皆様には物心両面で多大なご支援をいただき、衷心より感謝を申し上げます。

宗立専門僧堂とは、海外の修行僧と共にグローバルな見地から禅を学び合う特別な研修であり、曹洞宗が平成19年（2007年）から国内外で毎年執行している修行道場です。第7回目の今回は、10人の掛搭僧（アメリカ人5・フランス人3・ドイツ人1・オランダ人1）が参加し、私たちのお寺を道場として3カ月間の安居を行いました。

檀家を有する寺院で初の閉單、信徒との交流に大きな意義

これまでの宗立専門僧堂では、

いすれも檀家を有さない修行専門のお寺を会場としてきました。いわば世間と隔離された場ですから、修行に専念しやすい環境ではありますが、法事や日々の信仰の実態など「日本における寺院と檀家との関わり方」について、外国人掛搭僧に伝えづらいという側面もありました。

今回、私たちのお寺が道場となり、外国人修行僧が葬儀などさまざまな法要を実体験でき、檀信徒の皆様と直に接する機会が得られたのは、宗立専門僧堂の新展開ともいえる意義深いことでした。このたびの皆様のご協力は、曹洞宗が国際化を促進していく上で、大きな一步を踏み出す力となりました。

この貴重な経験を糧として、私たちの信心を育みましょう

宗立専門僧堂の期間中は、外国人掛搭僧だけでなく、堂長老師をはじめ曹洞宗の名だたる老師方が、指導のために長泉寺に滞在されました。角田の地を舞台として、国際的かつ非常に高度な修行・研修が行われたのです。

このたびの経験により、私たちのお寺が「曹洞宗の中心的な活動ができる寺院」として成長できたことを、檀信徒の皆様とともに喜び、さらなる精進への糧にしたい



【用語解説】
閉單／閉單……僧堂（道場）を開くこと／閉じること
安居……托鉢等を除いて外出を禁じ、坐禅修行に専念すること
掛搭僧……1カ所に滞在して修行する禅僧のこと

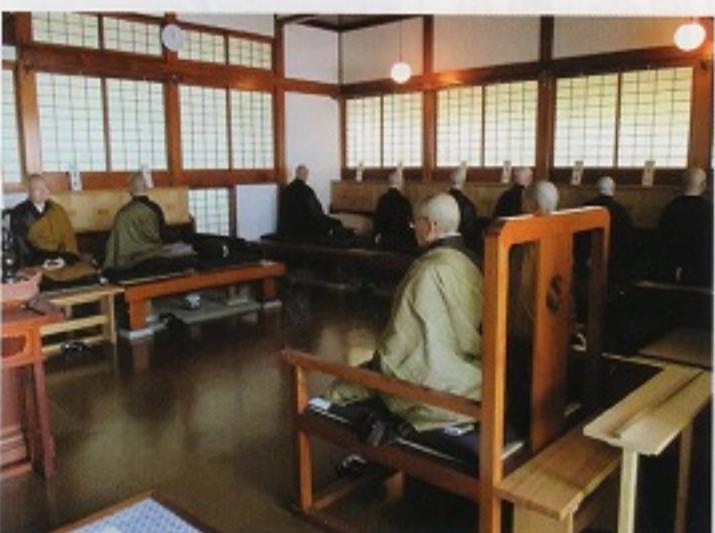
開單式

平成25年8月26日



進退習儀

修行生活での基本的な起居を学習



参禅

坐禅、無言摂心、僧堂行茶などの修行



作務・僧堂行鉢

食事、清掃などもすべてが修行の一環

充実した指導体制に恵まれて、専門僧堂は順調な滑り出しに

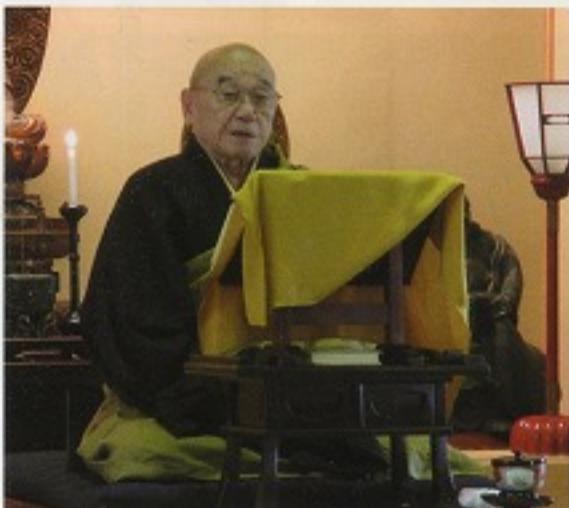
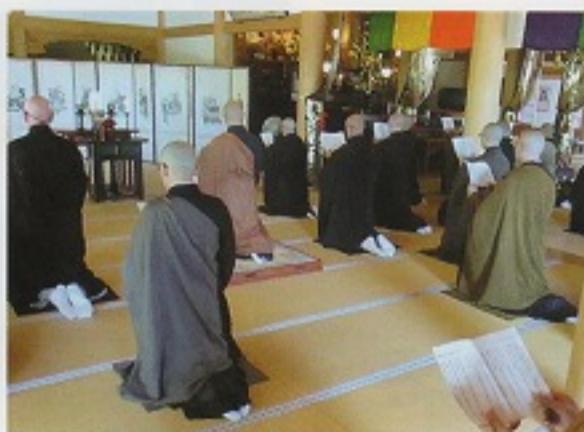
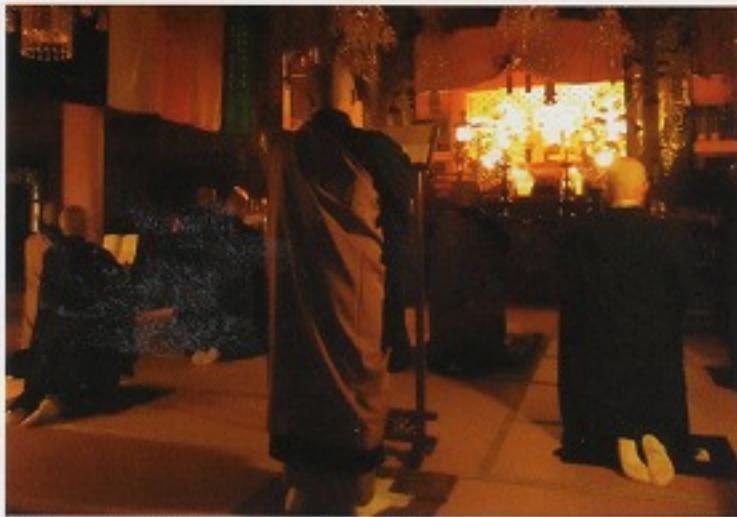
僧堂開單の前日、男僧6人・尼僧4人の外国人掛搭僧が長泉寺に上山しました。最高齢で65歳、最若齢者でも28歳の掛搭僧は、それぞれ母国で修行を重ねており、10人中6人は過去にも宗立専門僧堂を経験しているため、滞りなく安居を開始することができました。

開單から最初の6日間は旦過察期間として、法堂や僧堂における基本的な作法を学ぶ「進退習儀」を設け、お袈裟の掛け方や着物の着方・疊み方、応量器の扱いなどを指導しました。また、今回の僧堂では、僧堂生活の経験豊富な日本人僧による「古參」という役職を新たに設けたことで、進退の指導が充実していました。

僧堂運営に関して、鈴木堂長老師をはじめ、通訳も務めていただいた佐々木監事、進退指導を統括された吉松講師、師家養成所員の方々、事務を担当された輝元副監事およびヨーロッパ総監部・国際センター職員の方々に長期間滞在していただいたことに加え、私も護持会担当役員および檀信徒の私（成賢）が堂監を拝命して常駐できました。そして、何よりも護持会担当役員および檀信徒の

法式・声明

毎日の勤行や月間・年間行持の実践



宗乘

曹洞宗の教義についての提唱・講義



公務習儀

僧堂での日常公務を学習・実践



皆様からのご尽力により、このた
びの僧堂を円成できたと感謝して
おります。

【用語解説】

旦過寮……修行僧の宿泊寮舎であ
り、正式に掛塔が許されるまでの
予備教育施設ともなる
応量器……禪宗の修行僧が使用す
る個人の食器のこと

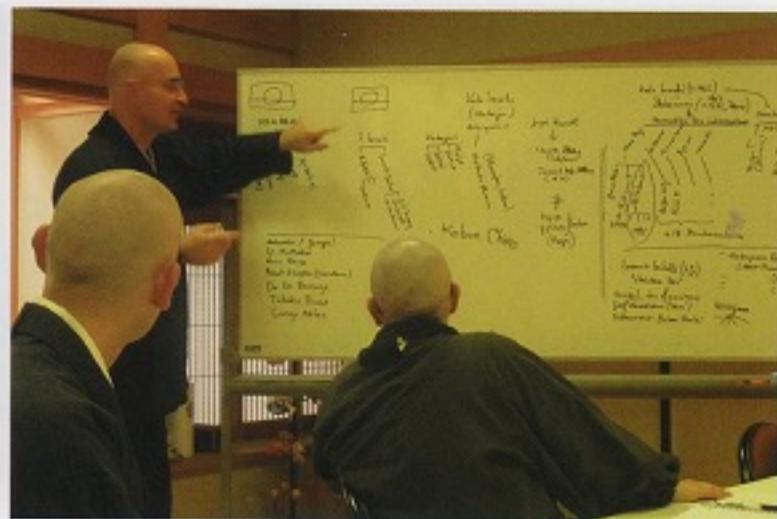
堂長／堂監／監事……宗立専門僧
堂の運営に必要な役員で、校長／
副校長／教務主任の職を担う

坐禅や勤行などの実践に加え、 教義や文化への理解を深める

曹洞宗には外国籍の僧侶が約7
40名在籍しており、曹洞禪は世
界的規模で日々拡大を続けてい
ます。こうした国際化に対応するた
め、外国人出家僧を対象に師家を
養成することが、宗立専門僧堂の
主目的の一つです。従つて、掛塔
僧の修学内容は非常に高度であり、
多岐にわたります。

参禅や法式・声明はもちろんの
こと、期間中の生活すべてが修行・
研修となるよう、綿密に教育課程
を組まれています。また、宗乗・
余乗ともに優れた講師陣による講
義とディスカッションの機会が設
けられました。

今回の宗立専門僧堂のテーマは、



閉単式

平成25年11月18日



人権学習

東日本大震災の被災地を訪問・視察し、供養法要を執行

道元禅師による『正法眼藏』の「現成公案」を基に「自己を習う」と設定しました。掛搭僧はそれぞれの母国で師家を志しており、学道の者・法を伝えようという者はすべからく向上の人であるべきという思いを込めたテーマです。さらに、今回は瑩山禅師に関連する講義も例年より増やし、一仏両祖の御教えについて啓蒙に努めました。3ヶ月という短期間ではありましたが、掛搭僧たちは集中して修学に臨み、曹洞宗の教義や仏教・禪・日本文化への理解を深めました。

【用語解説】

師家……修行僧や在家者を指導する資格をそなえた者

東北そして長泉寺ならではの地域に根差した仏法を実体験

巻頭でもお伝えしたように、今回の宗立専門僧堂は、檀家を有する寺院で初開单されたことに大きな意義がありました。

角田市内外を巡った3度の托鉢では、地域における日常生活の中に、ごく自然な形で仏法が浸透している様子に触れました。また、檀信徒の方のご葬儀に参列させていただき、日本において寺院が担つている大きな役割の一つを学びました。11月14日の総回向では、

布教教化

托鉢・禪文化・日本文化の学習、地域社会との交流など



葬祭ホールでの人形供養祭など日本独自の法要に、掛搭僧は強い関心を示しました。また、寺院建築や茶の湯、居合、表具などを体験学習し、日本の伝統文化と「禪」のかかわりについて理解を深めました。

本町の大沼王子さん、笠島の佐藤正友さんのお宅では、托鉢の途中でお疊をご馳走になりました。地域の皆様のおかげで、掛搭僧は多くの貴重なことを学ぶことができました。



宗立専門僧堂 托鉢のご報告

9月27日 軒鉢 93,118円

10月21日 軒鉢 70,921円

11月13日 遠鉢

※遠鉢では淨財は募りません

合計 164,039円

角田市社会福祉協議会へ寄付



檀信徒の皆様とともに行持を執り行うことを学び、ご先祖様を供養する心のありようを実感できました。いざれも外国人掛搭僧にとっては初体验であり、母国で法を伝えていく上で貴重な学びとなりました。

また、地域の防災訓練やミネ幼稚園の運動会など、寺院の社会参加・地域交流についても体験できました。私たちのお寺には日頃からお参りに来られる方がいらっしゃいますし、園児たちや保護者の皆様とも日常的に接する機会があります。地域に根差した寺院とはどのようなものかを理解するには、非常に恵まれた環境だったと思います。

そして、東北で初開催されたこの、もう一つの大きな意義は、東日本大震災の被災地を訪問できたことです。今も生き残る被害の爪痕、そして被災者の方々の悲痛を目の当たりにし、掛搭僧たちは衝撃を受けていました。僧侶として自分たちに何ができるのか、今後の修行について改めて熟慮する機会となりました。

【用語解説】

軒鉢……一軒一軒の門前で読経し、喜捨を乞う托鉢
遠鉢……修行した姿で歩くことによつて法を説く托鉢

皆様に御礼申し上げます。

檀信徒および有縁の皆様方から、たくさんのご喜捨と宗立専門僧堂へのご支援を賜りました。ありがとうございました。平成25年6月28日から11月21日までの芳名帳より、項目ごとに五十音順で掲載いたします。

大野 岡田 小川 小形 小形 小形 小形
お経を読む会 福男 時雄 重松 静一
尾崎 光子 ひろし みえ子
長田 三男
小澤 実
小田川 かつこ
小野寺はなこ
小野 陽子
小野 照子
小野 昇寿
小丸 淳
柿崎 キン
笠間 道子
笠村 秀生
加藤会館
金上 康宏
金野 朝子
金子 金子
木川田 菅野 川鶴
菊池 菊池
信一 康平
美代子 明光雄 六男 クニ
勝子 司

佐藤義衛　澤井嘉子　塩田幸一　志賀四郎　自照院
 瑞雲寺　白澤キヨ　柴崎宗夫　常因寺　注連内　隆一
 須崎芳子　鈴木俊輔　鈴木忠幸　鈴木俊輔　須藤正敏
 高瀬由美子　高田由美子　高橋伸一　高橋英一　瀬戸昭一郎
 高橋淑子　高橋良子　高橋たけの　高橋たけの　大林院
 高橋光子　高橋寅治　規義実治　規義寅治　曹洞宗宗務庁
 高橋滝口　高橋玉江　高橋一彦　高橋千津子　徳藏寺
 高橋高松　高橋高橋　高橋高橋　高橋高橋　洞林寺
 高橋和也　高橋正勝　高橋拓浩　高橋中野　高橋豊岡
 中野和也　中野正勝　中野拓浩　中野中野　中野中野

中畑 義巳 博幸
中山村 邦夫 まさを
中川 成田 满子 正義
長谷川 文男
馬場 南部 信一
馬場 原田 信子 宗郎
南部 西牧 昭雄
沼崎 二瓶 信子
芳賀 成田 義光
成田 原田 幸一
日野 勝男 未江
高峰 広治 満子
峰仙寺 藤根 浩子 里つ
星 藤野 幸一
保志 幸一
峰 伏見 美紀
志 舟山 充子 いく子
星 藤根 幸一
本郷 藤野 幸一
星 村田 伸二
材 町田 充子
製 三浦 敏子
材 松川 隆
所 本郷 忠克
教 木田 恵子
職 木田 恵子
員 木田 恵子
同 木田 恵子
明 水野 文子
徳 水野 文子
義 村田 正人
義 武者 正人
園 名川寺 かほる
園 ミネ幼稚園 かほる
園 目黒 澄吉
園 目黒 清吉
園 目黒 昭子
園 目黒 サノ子
園 物江 亮
園 最上 六千男

森森森森森森森森
森山森山森山森山
門間八木沼八木沼
浩正治登茂子俊夫
堺子旭昌弘
晴夫興一
道也
睡夫哲夫
君江政秀綱子光雄
喜郎克哉明りん
江田吉田吉田吉田
山中湯村横山
山田山田山田山田
山谷津谷津谷津
八島八島八島八島
八木沼八木沼八木沼
森森森森森森森森

生活用品等……米・味噌・梅干・野菜・果物・海産物・酒類・茶・ジュース・菓子・生花・商品券・生活用具・書籍など

本物品等……木、味噌、梅干、野菜、果物、海産物、酒類、茶、ジュース、菓子、生花、商品
その他……お地蔵さんの養物、仏具數、清掃用、自筆本、自筆書画など手作りのもの

※ここに掲載させていただいた皆様だけでなく、匿名で喜捨をされた方々もいらっしゃいました。また、お一人で何度も喜捨をされた方もたくさんおられます。同項目内で重複する御芳名は刺繡させていただきました。すべての皆様に心より感謝いたします。ありがとうございます。

高瀬 悅子
高梨仏具店
高橋 明美
高橋 賢宣
高橋 菜子
高橋 生花店
高橋 馨
高橋 嘉一
長徳寺
東海 泰典
東禅寺
館矢間山田青年部
田口 静子
武智 京子
館林 明憲
德藏寺
洞林寺
長泉寺（大内）
登米 昭
中川 敏男
中地 清夫
中畑 郁雄
永山 博幸
成田 宗郎
南城 純子
西牧 昭雄
櫻橋 醇一
根本 武士
根本 勝
根元泰蔵商店
野川 亘
野口 紀久子
芳賀賛店
橋本 静一
橋本 静
花のおとも
繁昌院
半谷 宏司
日野 幸一
藤野 浩
伏見 充子
佛心堂
舟山 辰一
細川 保志
細川 和人
細野 紹
細野 紹
細野 紹
本田 市夫
ふる里交差点センター
ほこだて仏光堂
ふる里交差点センター

佐藤 岩間 渡辺 渡辺 林叟院 龍雲寺 吉野 横山 湯村 遊膳 山並 山中 石販 山田 山田 山下 山口 盛田 森田 目黒 村岡 名川寺 满興寺 丸谷 松崎 松崎 松浦 曲木 増子 前鳴 敬子 本間 昭雄 正久
斎藤 弘 はな子 さみ子 恒雄 陸二 正一 義徳 里ん 勇 伸昭 秀江 君江 正夫 久道也 道也 千鶴子 幸子 尊生 百合子 正敏 文子 きみ子 あい子 茂吉 市三夫 安典 吉子 あい子
その他

樣 樣

◆全十萬円 ◆全百萬円
支援金 宗立専門機器に対するご支援 佐藤 千恵子

※印刷用パソコン書体の都合により高橋姓の「はしご高」を「高」と表記させていただきました。
また旧字体の一部を新字体で表記させていただきました。ご容赦ください。



菊花を展示していただきました

稻置字小針の遠藤英一様には毎年、美しい菊花を展示していただいております。今年も十月下旬頃、本堂前・庫裡玄間に見事な懸崖(3鉢)と盆栽(4鉢)が展示されました。

宗立専門僧堂開單式にて、長泉寺責任役員長
鈴木欽次郎様よりいただいた挨拶のお言葉

このたび、宗立専門僧堂が、私たちの菩提寺長泉寺において開催されますことは、まことにありがたいことであります。そして、この開單式に参列の榮に浴しまして幸せを、しみじみと感じているところでございます。

私は、今まで、日本の東北の宮城県の仙南の中の

いに感謝いたしたいと思
います。
これから3ヶ月の厳しい
修行に臨まれる皆様を、微
力ながら檀家としてお支え
したい気持ちでいっぱいです
どうかお元気でご修行が
終られますよう、心よりお
祈り申し上げ、ご挨拶とい
たします。

宗立専門僧堂開單式にて、長泉寺責任役員長
鈴木欽次郎様よりいただいた挨拶のお言葉

長泉寺の役員を代表して、角田、という視点で生活し
一言ご挨拶を申し上げます。曹洞宗立専門僧堂開單式が、管長様をはじめ、全國の寺院様のご臨席のもとに、遙りなく進行されましたこと、心よりお慶び申し上げます。

海外から、そして日本全国からお出でいただきまし
た30名余りの皆様、遠路角田の地へようこそお出でくださいました。

角田、という視点で生活してまいりました。あと1週間で90歳ですが、この長泉寺において世界の人たちと一緒に合掌いたしましたことで、「毎朝仏壇にご飯とお線香を供え、先祖の命日にはお墓参りをする」という何気なく過ごしている日常生活を、世界的な視点から考えてみる機会を与えていただきました。今日の集



【表彰を受けた方】
宍戸信子さん
清水多美さん
中平智子さん
加藤洋子さん
奥野まゆみさん

このたびの宗立専門僧堂で典座寮（僧堂の台所を担当する部署）をお手伝いいたいた皆様に、曹洞宗管長猊下より表彰状が授与されました。

大人数が長期間にわたつて安吾する僧堂を、食の面でしつかりと支えていただきました。日の出前から夜遅くまで、連日のご奉仕をいただきました。皆様のおかげで、私たちは安心して修行に専念できました。心より感謝し、御礼申上げます。

長宗寺 年末年始の行事予定

- | | | |
|----------|--------|------------|
| 12/24(火) | 午前10時～ | 歳末助け合い托鉢 |
| 12/28(土) | 午前10時～ | 除災招福大般若祈祷会 |
| 12/31(火) | 午後11時～ | 除夜の鐘 |
| 1/ 3 (金) | 午前10時～ | 新年大般若祈祷会 |

※12/30～1/3は葬儀を出しません。他の仏事は行います。

1区画 1.82m×2.12m(3.85m) お一人様2区画までお求め出来ます

永代使用料 80万円 及び 管理費年 5千円

設備 駐車場、駐輪場、水汲み場、手桶

特長 通路花崗岩版敷全面バリアフリー

場所 長泉寺東向山(台山公園北隣)

A cartoon character with short brown hair and a white shirt is holding a pen and a small notepad. The text "いつも清潔な
気持ちでお参り
できます。" is written next to the character.

長泉寺では、今秋から東墓地の一般分譲を開始しました。
お遺骨の有無にかかわらず、どなたでもお求めいただけます。また、墓地お求め後の仏事は、すべて長泉寺が執り行います。

墓地内の通路や駐車場などの施設は、段差を排した平坦地になつており、老若男女を問わず、安心してお墓参りをしていただけるのが特徴です。

★★★お知らせ★★★

長泉寺東墓地の一般分譲受付を開始しました。
お問合せはお気軽に【TEL 0224・62・1

